

# 豊の国・芝津の里フォトギャラリー



表紙は荘八幡神社参道、貫川に架かる「御座橋」より  
2011年4月10日撮影

# 貫の棚田

撮影：2009年9月6日



# 貫山・平尾台ルート

2003年9月28日



# 水晶山

2011年5月8日



林道貫山線8.9km標識付近の駐車場から登ると比較的  
道が良いが崩落している所があり車では無理。山頂か  
らの見晴らしは、今ひとつ。

# 林道下貫線から見る貫・田原・曾根地区

2010年10月17日



バスが数台停まっている小高い丘は、西鉄弥生が丘営業所。

# 貫山の蝶

2009年9月6日



# 貫山の蝶

2009年9月6日





# 貫川の蛍

2012年6月6,10日



莊八幡神社の入り口、貫川御座橋から撮影。6月第2土曜日に「ほたる祭り」を開催。蛍の種類はゲンジボタル。夜8時～8時半が一番蛍の飛翔が見られるが、周囲が明るいので、蛍が活発に飛ばない上に少々見難く、写真撮影は人的要因も加わり、さらに困難を極める。

# 貫城跡(大字貫字別府)

2011年4月9日



松尾神社から田んぼを挟んで真東の向かい側の高台にある。犀川(さいがわ)馬ヶ岳(うまがたけ)城主新田義基が応安年間(1368〜1375年)に築き、養子の貫掃部介(ぬきかもん)のすけ)宗景に城を守らせた。

桜の右側、土塁の上に城櫓があった。現在は個人の私有地。

# 文化記念公園(日本庭園)

2008年4月3日



# 高蔵山から見る曾根干潟

2008年4月20日



# 高倉堡墨跡(高蔵山広場)

2008年4月20日



沼本町三丁目交差点から高蔵山(たかくらやま)森林公園方面へ。公園手前の行止まりから企救自然遊歩道に入り、約40分。広場に残る明治33年竣工の砲台跡地。12cmカノン砲4門、15cm臼砲8門が設置され、煉瓦造りの倉庫も8基ある。

# 小倉競馬場

2007年12月16日



# 平尾台野焼き

2009年3月8日



# 小倉鉷業(東谷)

2009年8月4日





# 小倉鋁業(東谷)

2009年8月4日



# 三菱マテリアル東谷鉾山専用線廃線 2009年8月4日



# 金辺峠・島村志津摩の碑

2007年4月26日



1866年の第二次長州征討で、8月1日小倉城自焼。小倉軍司令官島村志津摩(しまむらしづま)は香春に臨時藩庁を置き、企救郡の農兵達を指揮して長州軍を金辺峠(きべとうげ)で迎撃。幼い豊千代丸君は肥後へ逃れ、再起を期すことになった。

# 企救・田川郡境界碑(金辺峠) 2007年4月26日



# 春吉・眼鏡橋(大正8年完成)

2007年12月9日



# 小倉城

2008年4月5日



13世紀中頃に築城、毛利(森)勝信が16世紀末に城郭を、1602年より細川忠興が改築、唐造りの天守を築いた。第二次長州征伐の1866年8月1日に自焼、小倉藩は香春(かわら)に撤退した。

現在の天守閣は1959年に鉄筋コンクリートで再建されたもの。

# 小倉城と紫川・リバーウォーク

2004年7月24日



# 長崎街道・常盤橋

2004年7月24日



長崎街道の起点として有名な常盤橋だが、中津街道、門司往還、秋月街道、唐津街道、九州五街道の起点でもある。



# 常盤橋と新幹線

2004年7月24日



# 中津街道・中津口

2006年9月24日



常盤橋が名目上の中津街道の起点だが、実質的には中津口が中津街道の出入り口。江戸時代の小倉の城下町はここまで。

# 八坂神社・中津口門大石

2006年9月24日



八坂神社に移設された、中津口にあった大石。初めてここを通る時、これを睨んで通ると、将来、成功すると言われたとか。

# 湯川水神社(旧道・清和幼稚園横) 2010年9月20日



鳥居手前右の木の根元から、プクプク泡を伴って水が湧き出ている。

霧が丘から足立山の麓をぐるりと回って、湯川の旧道に入ってすぐ、清和(せいわ)幼稚園の隣に在る。御祭神は水波能女神(みずはのめのかみ)。和気清麻呂(わけのきよまる)が使った温泉は湧出が止まってしまったが、この湧水はそのすぐほとりにあり、源泉は同じと言われている。

# 安部山公園和氣清麻呂像

2008年4月3日



道鏡による宇佐八幡宮神託事件に巻き込まれた和氣清麻呂が、斬られた足の筋を、規矩(企救)郡竹和山麓石川村の湧水で治した際、創庵宿泊し、神祠を立て奉齋していたとされる蜂ヶ坂の地。当初、葛原八幡宮もここに在った。足が治ったので、後ろの山を足立山と称すようになった。

# 足立山全景 (林道下貫線より撮影) 2010年10月17日



標高597.8mの足立山。周防灘や響灘からの風により、山裾によく霧が発生するので、別名「霧が岳」とも呼ばれる。

# 竹馬川起点

2010年11月7日



足を治すため和氣清麻呂が宇佐八幡宮で神馬を借りて規矩（企救）郡竹和山の麓の石川村に着いた所が着場と称され、着場は築波、さらに竹馬となった。古代はこの辺りまで海岸線。湊が転じて蜷田（になた）と呼ばれた船着場で、菅原道真も海路到着し、ここから陸路、大宰府に向かったと伝えられている。

1157(保元2)年、豊前国司となって長野城を築いた平康盛は、蜷田に石橋の竹馬橋を架けたと言う。竹馬川に長野川が合流する付近に石材が散在しているところがある。

# 中津街道(旧道・葛原地区)

2006年9月24日



坂を下った所にはこんな看板も。今でも生活道路として使用されているが、狭いため一方通行の部分があり注意が必要。



かつて湯川にあった旧北九州総合病院の裏手に、ひっそりと昔のたたずまいを残す、10号線と平行して走っている旧中津街道、通称、旧道。宇佐使(うさづかい)の際、勅使が県境の山国川手前まではこの街道を通って行き、中津薦神社から宇佐神宮までの間の勅使街道に繋がる。



# 葛原八幡神社(旧道・葛原地区)

2010年9月20日



葛原交番から山側に入ってすぐ、突き当たりには在る。道鏡事件に巻き込まれた和氣清麻呂は宝亀元年(770年)赦免され都に帰り、延暦18年(799年)没。清麻呂公の御霊を八幡社に合祀していたが、弘仁8年(817年)清麻呂公の嗣子、真綱が勅使として宇佐からの帰途、蜂ヶ坂に立ち寄り八幡社を現在の地に遷し、応神天皇、神功皇后とともに合祀した。

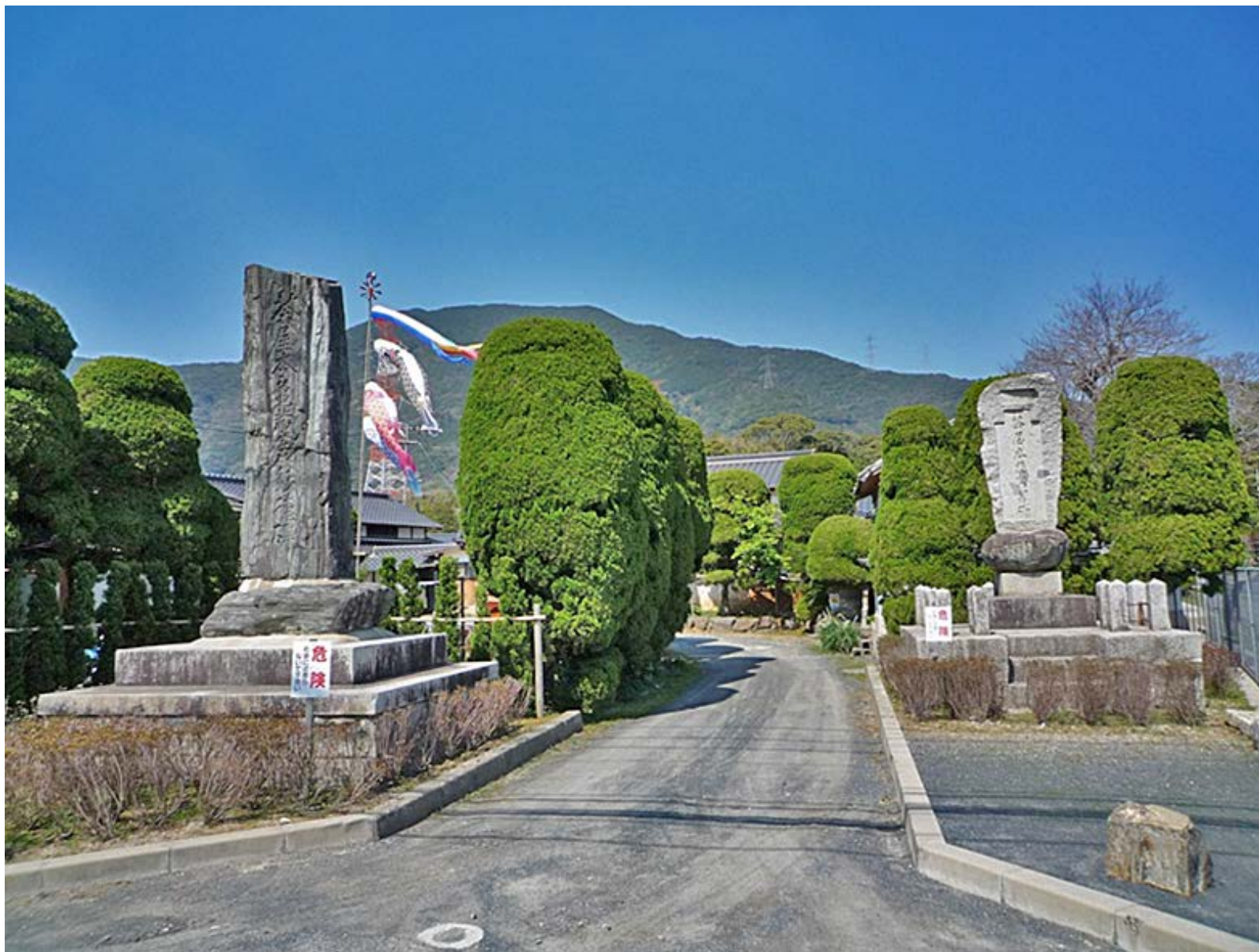
# 妙見古道(葛原地区)

2010年9月26日



葛原八幡神社に接した池と葛原小学校の間の道を山へ向かって住宅街の道を進み、石鎚神社の手前から古い山道が続く。妙見神社上宮(山頂)まで2時間ほど。妙見(北辰・北斗七星)信仰の修験者が、かつて登った道。

# 中津街道茶屋跡(旧道・葛原地区) 2008年4月3日



足立山の麓をぐるりと回って旧北九州総合病院の裏の坂を下りて来た、旧道沿いに在る。

# 竹馬川唐戸橋(中津街道曾根宿)

2006年9月24日



# 正覚山西迎院(中津街道曾根宿)

2006年9月24日



浄土宗西山派光明寺末(長野護念寺末とも)。  
本尊阿弥陀。開基不詳。中興秋宮月洞和尚。  
慶応2年兵火に罹り、明治3年再建。

# 日豊線と中津街道(朽網地区) 2006年9月24日



曾根新田の干拓が進むまでは日豊線のあたりまで海岸線が入りこんでいた。舗装はされたが、江戸時代の中津街道の面影を残している朽網地区。

# 帝踏石(朽網西二丁目)

2010年11月7日



景行天皇(日本武尊の父。帝紀紀元71～130年。実在4世紀前半?)が土蜘蛛(土着の豪族)討伐の時、この花崗岩の巨石の上で戦勝祈願したと伝えられている。JR日豊線より少し西側、貫寄りにあり、現在、周囲は戸建て住宅地となっている。

# 豊前松山城跡(苅田町松山) 2009年5月10日



豊前国第一級の難攻不落の山城要塞。天平12年(740年)藤原広嗣によって築城。慶長11年(1600年)に廃城となる。国道10号線小倉方面からは松山入口を左折。東九州自動車道からだと「苅田北九州空港インターチェンジ」を下りて、「苅田北九州空港IC入口」を右折。松山を見ながら住宅地に入って行き、標識を目安にT字路を右折。狭い道を入れて行って、民家の空き地のような所が駐車場。松山城跡登山口から徒歩約25分で山頂。



# 狸山古戦場(朽網東5丁目)

2009年5月10日



左端の豊前松山城を目の前に朽網川の南側、中津街道沿いにある、ひょうたん島の様な山。開発が進んで現在付近一帯はスワロータウンと呼ばれるが、京都郡側は今でも竹藪、木々が生い茂り、軍兵を伏せるに好都合。そのため松山城を巡って、応永(1394～1427)年間をはじめ、たびたび大友方(貫掃部介宗景、長野修理太夫義種の名が見える)・大内方(杉弾正弘信・光治、家臣高橋弥十郎種基、志房和泉義政ら)、後に毛利との戦いが繰り広げられた。また、慶応二年小倉城自焼後、田川郡境の金辺峠とともに、小倉藩の軍が長州奇兵隊と戦った地でもある。

# 企救・京都郡境界碑

2010年11月7日



企救郡と京都郡の境界を示す石碑。  
民家の庭先に在る。  
遠くに見える小高い山は、豊前松山城跡。

# 中津街道・行事飴屋門

2006年10月15日



江戸時代宝永年間に九州の海の玄関口豊前国行事村に栄えた、小倉藩屈指の豪商玉江彦右衛門。中でも、もち米をモヤシの芽で発酵して作る、上野焼（あがのやき）の壺に入っていた水飴「美壽飴」は美味で、大いに財を成して六郡大庄屋の上席となった。享保12年（1727年）、屋号を布袋屋から飴屋に変えた。

旧飴屋門は御成門と言い、藩主を迎える為に造った。隆盛を誇った玉江家も、明治維新とともに11代で終焉を迎えた。

# 中津城本丸

2010年9月26日



天正15年(1587年)黒田如水が秀吉に豊前国16万石を与えられ、築城に着手。慶長5年(1600年)に細川忠興が豊前・豊後39万石で入封し、修築、元和7年(1621年)に完成するが、寛永9年(1632年)に小笠原長次が入封し、中津藩となる。享保2年(1717年)に藩主が奥平昌成に代わり、明治維新まで続く。

2010年10月、不動産会社の中津勧業を通じ、奥平家が競売で売却したが、従来通り一般公開されている。

# 中津薦神社・三角池鳥居

2011年7月30日



真薦で作られた薦枕が宇佐神宮の御神体として神輿に担がれ、養老4年(720年)の隼人の乱の際、辛嶋ハトメ率いる宇佐「神軍」として行幸、大伴旅人率いる大和朝廷軍と共に鎮圧を果たした。隼人を多数殺傷したので放生供養せよとお告げがあり放生会(ほうじょうえ)が始まった。

宇佐神宮の元宮の一つ、中津薦(こも)神社。別名大貞(おおさだ)八幡。水神(龍神)を祀り、三角池(みすみいけ)は「御澄池」と記すは、かつては現在の数倍する広大な水をたたえ、中津地区を潤す水源であった。この鳥居のある三角池が内宮で左の森の奥にある神殿が外宮。鳥居の間から真薦(稲科の植物)の自生地が見える。薦刈神事は宇佐神宮行幸会の中で、古より辛嶋一族が行い伝えている。

# 中津薦神社・大楠

2011年7月24日

宇佐神宮の大楠よりも幹が太く、樹齢千二百年とも、千五百年とも言われている。参道から少し離れた、神門正面の脇道を出てたところ、右手にある。かつて龍神が天よりこの大楠に降り立ち、三角池の中に浮かぶ小島、薦休（こもやすめ）で巫女と衾を共にした。その際、真薦で編んだムシロと枕が使われた。



比売巫女（ひめみこ）は神と一体化して、あたかもシャーマンの如く、神のお告げを託宣したと言う。この神人同床の秘儀は天皇家にも伝えられ、即位式の大嘗祭では必ず行われる。

# 中津薦神社・本殿

2011年7月24日



社殿は承和(834~848)年間に創建。御祭神は本殿が応神天皇、比咩大神、神功皇后。八坂社(祇園社)が素盞鳴尊(すさのおのみこと)、若宮社が応神天皇皇子(仁徳天皇)。社紋が宇佐神宮の三つ巴に対して一つ巴(靱絵)なので祭神は宇佐宗像三女神ではなく三女神(比売大神)の中の一人(例えば中津宮の湍津姫神:たぎつひめかみ)ではないかという説もある。

# 中津薦神社・神門

2011年7月24日



和氣清麻呂の宇佐八幡宮神託事件にちなむ、宇佐使（うさづかい）の勅使下向の際、立ち寄る時のみ、その門が開く。現在は10年に一度の勅使祭として侍従職や掌典職が行う。



# 宇佐神宮・参道鳥居

2008年6月22日



全国44,000社と言われる八幡神社の総本宮。伊勢神宮に次ぐ第二の宗廟として皇室の信頼も厚い。伊勢神宮に匹敵する広大な敷地を有し、巨大な鳥居のせいで、人が小さく見える。

# 宇佐神宮・本殿

2008年6月22日



神亀2年(725年)に現在の宇佐亀山に移って一之殿を建立。  
天平元年(729年)に二之殿、弘仁14年(823年)に三之殿建立。  
中央二之殿に宗像三姫神と同じ田心比売(たごりひめ=多紀理毘売命たごりひめ)、  
湍津比売(たぎつひめ)、市杵島比売(いちきしまひめ)を祀る。  
左の一之殿には応神天皇、右の三之殿には神功皇后を祀る。

# 宇佐参宮線26号蒸気機関

2008年6月22日



明治24年、ドイツ・ミュンヘンのクラウス社製造。  
明治27年九州鉄道が購入。昭和23年に大分交  
通に譲渡、昭和40年廃線まで活躍。

# 貫・松尾神社(貫本町)

2011年4月9日



画面左隅、白い柵に囲われた所に景行天皇が土蜘蛛(土着の豪族)退治の際に立ち寄り、使用したとされる井戸がある。

祭神は山・農耕、酒造神でもある大山昨命(オオヤマツミノミコト)、その娘で富士山浅間大社に祀られる木花咲屋比売命(本名、神阿多都比売:カムアタツヒメ 薩摩国阿多郡阿多郷、現在の南さつま市金峰地区周辺出身の姫?)、大国主命の別名、大穴牟遲命。

# 莊八幡神社

2007年12月10日



祭神は譽田別尊(應神天皇)、息長帯媛命(神功皇后)、多紀理毘賣命・市寸嶋比賣命・多岐都比賣命(宇佐・宗像三比賣命)。社殿手前右側に宇佐八幡の神輿が駐興した鈴石がある。



神社名は当初、鈴石神社から臈庄神社、そして、宇佐の莊園の地であったことから、莊八幡神社と改称、現在に至る。地名の貫を冠して貫八幡とも言う。階段が長いので、足腰に自信が無い方は、西鉄弥生が丘営業所目指して車で来て、その先を左折、神社手前の駐車場に停めて参拝が可能。

# 荘八幡神社・鈴石

2007年12月10日



貞観元年(859年)、宇佐八幡宮の御分霊を京都の男山(石清水八幡宮)に祀る為、宇佐からの道中、貫の庄にあった鈴石の大石の上に一夜、神輿を駐興。貫の領主、石川朝臣左近将監直木が自ら神主となり、元慶7年(883年)社殿を造営。以来、現在まで石川家が守り祀っている。

# 津田八幡神社

2010年12月5日



宇佐八幡宮の御分霊を京都の男山(=雄徳山:現在の石清水八幡宮)にお祀りする道中、生岩山に神輿を駐輿したのを起源とし、天元2年(978年)に創建したのが始まり。御祭神は譽田別尊(応神天皇)、息長帯媛命(神功皇后)、多紀理毘賣命・市寸嶋比賣命・多岐都比賣命(宇佐・宗像三比賣命)。現在の社殿は永正6年(1509年)に津田村の鬼門(丑虎の方角・北東)のこの地(津田古墳)に遷座したもの。



津田交差点側から見ると、古墳らしく見える。

# 津田八幡神社元宮・生岩山

2010年12月19日



宇佐八幡宮の御分  
霊を京都の石清水  
八幡宮にお祀りする  
道中、神輿を駐輿し  
たとされる生岩山。  
八幡宮跡の石碑が  
建ち木々に包まれる  
様に巨石が見られる。  
道を挟んで小倉カン  
ツリー倶楽部のコー  
スがある。



反対側から見ると、古墳の様にも見える。



# 沼八幡神社

2007年12月10日



御祭神は仲哀天皇、神功皇后、姫大神。企救郡誌によると「往古吉田の庄浜と云処に御鎮座あり。龍王社と立井び給いひ、国司の宮社にして、大内義弘卿再建ありしが、正親町天皇御宇天正年中、神託に依り、今の地に遷し奉り、時の領主毛利元就卿より、大祭を営れける。是に依、市丸山八幡と称し奉る」

沼楽で有名。明治3年企救郡神社記によると「初在於吉田村之浜而、与龍王社同、元龜二五年(1571年)平塚勘解由左衛門久吉再建にて、社領御寄附等有。其頃平野家社職之處、元和年間、沼村産神の故を以つて、川江吉一社職と成。慶安三年沼村一丸山奉還。古文章寄附状等は于平野家在。天保十三年寅年沼村新開築立成就之時、新田之内一反、從小笠原候在御寄附」

# 若宮八幡神社(長野本町)

2010年12月5日



長野城主長野豊前守直盛が建仁2年(1202年)鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請し、長野臼山に祀った。明応3年(1494年)に現在地に遷座。その後天正年間の末、長野城が落城した際にこの社も兵火により焼失。

安永4年(1775年)建立の鳥居・安永3年(1774年)の手水鉢・天明2年(1782年)建立の灯笼・寛政11年(1799年)銘の猿田彦碑が残る。御祭神は仁徳天皇(応神天皇の子、若宮)、誉田別命(応神天皇)、息長足姫命(神功皇后)

# 高倉八幡神社(横代南町)

2007年12月10日



足利尊氏が九州下向時、横代の地で食料の貢倉を  
営んだ際、京都三条の高倉八幡宮を勧請したのが  
起源。  
寛政9年(1797年)の鳥居の他、明治39年に白  
髭社を移設したため、弘化5年(1848年)建立の  
白髭社の鳥居も見られる。

御祭神は息長帯比賣命(神功皇后)、品陀和氣命(応神天応)、多  
紀理比賣命、市寸島比賣命、多岐都比賣命(宇佐・宗像三比賣命)、  
沖津彦神、沖津媛神、罔象女神、大山祇神、猿田毘古神。

# 西大野八幡神社

2007年12月9日



天智天皇8年(669年)山上に鎮座した社を、江戸時代の寛文8年(1668年)現在地に遷宮。その前年に、母原の東大野八幡神社が分社。大野荘は宇佐神宮弥勒寺の荘園。

# 東大野八幡神社(母原)

2007年12月9日



天智天皇8年(669年)大野山上に鎮座した社より、江戸時代の寛文7年(1667年)に母原の地へ分社。大野荘は宇佐神宮弥勒寺の荘園であった。

# 蒲生八幡神社

2007年12月9日



三女神（宇佐・宗像三比賣命）が企救郡蒲生村の虹山に天降り、永くこの地を護らんと告げ、虹山に蒲生八幡宮を建立。文治元年（1185年）、平家が壇の浦で敗れ、海中に没した三種の神器を規矩郡高浜浦の岩松興三が蒲生八幡宮に祈願して海底より回収、源頼朝公に献じ、新たに社殿を建立。天正年間の大友氏の兵火により社殿消失、岩松興三の子孫の弥三郎兵衛が一宇を高浜浦に高浜八幡宮を建立。

現在の社殿は細川忠興が小倉城を改築する際、蒲生村中島山に移し、名称を蒲生八幡宮に戻して再建したもの。

御祭神は応神天皇、神功皇后、仲哀天皇（応神天皇の父）

# 篠崎八幡神社

2007年12月9日



細川忠興公、社頭の造営・神領を寄進、小笠原忠真公・忠総公により本殿・楼門・鳥居等造立。隋神門の額は小笠原忠苗公直筆。御祭神は足中津日古命(仲哀天皇)、品陀和氣尊(応神天皇)、息長足比賣命(神功皇后)、市寸嶋比賣命・多紀理比賣命・多岐都比賣命(宇佐・宗像三比賣命)、玉依比賣命。

神功皇后三韓から凱旋、穴門の豊浦宮に向かう途中、鷹尾山(篠崎八幡神社の西方約1kmの山)に登り、山頂の大石(力石)に皇子を立たせ、菊の長浜や文字ヶ関・穴門(現在の門司・下関)の方向を望み、「穴門が近し」と仰った古事に基づき、敏達天皇12年、鷹尾山の麓に祠廟を建立、天平2年宇佐八幡神宮より分霊を勧請し、篠崎八幡神社と称す。貞和3年、足利將軍尊氏公、本殿を造立。天正6年、大友宗麟の兵火のため焼失。

# 篠崎八幡神社・蛇の枕石(夜泣き石)



紫川左岸、蛇淵(木町付近)に現れ、「女蛇恋し」と毎夜泣いていた大蛇が八雲社の御祭神により竜神となり、天に昇った伝承による。昭和47年篠崎八幡神社境内に遷された。



# 到津八幡神社

2007年12月9日



慶長5年(1600年)豊前国城主細川忠興により本殿が再建。後の小倉城主小笠原氏も崇敬。御祭神は息長帯比売命(神功皇后)、品蛇和気命(応神天皇)、市寸嶋比売命・多紀理毘売命・多岐都比売命(三比売命)、豊日別命(豊前・豊後の地主神、卑彌呼の跡を継いだ臺與との説も)

神功皇后が新羅征伐からの帰途、宇美の地で応神天皇を産み長門の豊浦宮へ向かう際、この地に船を着けたのが由来。神功皇后が川の水を汲み産湯に使ったので、板櫃川の鳥居付近を「産川」とも言う。文治4(1188)年、宇佐八幡神宮より勧請。1329(元徳元)年、宇佐大宮司に就いた南朝支持派の宇佐公連は、南北朝争乱を逃れて到津荘に身を寄せ、到津家を創立。孫の公規が宇佐大宮司に任ぜられ、宇佐に帰還するも永禄4(1561)年、大友宗麟の兵火により宇佐八幡宮消失。宇佐の神官らが神輿を担ぎ、「神体を守護して天正11(1583)年までこの到津八幡宮に遷座。

# 長尾・八旗八幡神社

2007年12月9日



境内森の中に古墳時代後期の横穴式石室3基からなる古墳がある。  
貞観年間(627～649年)に、山城の国・石清水神社より勧請。

# 足立山妙見宮

2007年12月16日



西暦770年、和氣清麻呂公は四男磐梨為綱(出家して妙運)を送って創建した全国唯一の神社。  
全国妙見神社の御祖(みおや)神社総本宮。

# 山神社(貫・下畑地区)

2010年10月16日



水晶山への登山道の麓、カーナビの地図にも載っている、貫・下畑地区にある山神社。由緒不明だが現在は下畑地区の産土神で、かつてこの辺りに僧坊を構えた貫権現の修験者達が山の安全を願って祀ったものか？ 貫川上流にかかる石橋を渡る時の景観も見事。お社の右脇に小さな石祠がある。

# 下畑・八幡様

2011年5月21日



通りからは物置小屋の様な側面しか見えない。四体中二体は石灰岩製。一体は台風で倒れ、折れてしまった。左奥の巨石は水神様。

宇佐神宮系列の莊八幡神社より歴史が古いと言われる下畑・八幡様。ご神体は中世鎌倉武士の所領地に多い、供養塔「板碑」(いたび=板石塔婆 いたいしとうば; 卒塔婆はサンスクリット語のストウーパに由来)。板碑を包む白布が原始八幡神の「白旗」に、「畑」の地名が渡来系「秦」一族に通じることを考えると、秦一族、あるいは八幡大菩薩を信仰する鎌倉武士の子孫が密かに隠れ住んだ地か？

# 新四国霊場第八番札所 下畑長命寺観音堂 2011年5月8日



正面からは隠れて見えないが、御堂の裏手上方に石祠がある。「畑」の地名は、応神天皇14年(西暦283年)に秦一族を率いて渡来した弓月君(ゆづきのきみ)に繋がる可能性も。

水晶山への中貫登山道の麓、下畑地区にある二市一郡新四国霊場第八番札所、下畑長命寺。本尊は観世音菩薩。右奥に先祖供養塔と、御堂左奥の崖には下畑・八幡様がある。

# 貫岳権現芝津神社上宮

2011年4月10日

上宮は山頂より  
少し下って、東  
側の脇道に入っ  
た所にある。



# 貫権現芝津神社

2010年12月1日



正平20年(1365年)に  
願阿が奉納。

企救郡有数の修験者の霊場。天正年間(1573～1592年)兵火で消失したが、梵鐘は焼け残った。祭神は「国産み」「神産み」の伊邪那岐命(いざなぎのみこと)と、妹でその妻である、女神の伊邪那美命(いざなみのみこと)。



# 貫山・猿田彦神社

2010年12月1日



由緒不明。祭神詳細不明。芝津神社より少し登った集落の端近くにおあり、貫山山頂・貫権現芝津神社上宮へ向かうための道祖神的な役割、あるいは修験者の僧坊の一つか？

# 上貫・徳善院

2010年12月19日



二市一郡新四国霊場  
第二一番札所  
上貫徳善院  
本尊 十三佛

貫山の登山道に沿って巨石がたくさん集められた場所があり、修験者の修行の地、僧坊となった。

上貫バス停終点より、さらに貫山へ向かって急な山道を上って行って、貫権現芝津神社より少し手前左手。夏場は繁った木々で、外からは分かり難く、車では通り過ぎてしまうような所。

# 真光寺 貫山 修善院

2011年3月27日



阿聖上人により文応年間(1260〜61年)あるいは延応元年(1239年)開山。弘長2年(1262年)、上人入寂時に焼亡、大内弘世が再興。往時には36もの子院を有し、その後兵火に遭ったが、寛文(1661〜72年)の初めに尊海が中興。小笠原忠真が山門及び堂宇等を再建。

二市一郡新四国霊場  
第七十番札所  
高野山  
真言宗  
真光寺  
本尊 阿彌陀如來



東九州自動車道を越えて、貫山寄りに少し入った所にひっそりと佇む。

# 豊磐社

2011年5月21日



真光寺前の道を上って行き、立石集落の先、道が途切れる手前が広場になっていて、その東向かいにお社が在る。名称から祭神は櫛磐間戸命(くしいわまとのみこと)と、別名、天石門別神(あまのいわとわけのかみ)とも称す門や境界の神で、邇邇芸命(ににぎのみこと)の天孫降臨時に同行した豊磐間戸命(とよいはまどのみこと)？

奥には、しめ縄を張った苔生した巨石と、その傍に石祠がある。狛犬の顔が平べったい獅子舞様。

# 貫・大日堂

2010年12月19日



東九州自動車道の高架すぐ横、階段を高速道へ向かって上って行った左手にある。

二市一郡新四国霊場  
第四番奥ノ院  
貫大日堂  
本尊 大日如來

貫川沿いでひっそりとした入り口の佇まいとは裏腹に、大日堂の名に相応しく、日当たりが良い。高速道路を挟んで貫山側に、現在も墓地として使われている、2基の通称「塚」があり高速道路の橋脚下付近には中世の古い供養塔である五輪塔もあったと言う。

# 清浄寺 浄土真宗本願寺派

2010年11月7日



東九州自動車道の高架下、貫川沿いの、かつては法照寺と称した禅寺。応永年間(1394: 室町幕府足利義満没年～1427年)は小御堂を残すのみだったが、戦国時代の名将、真田幸村の本家筋に当たる海野(うんの)氏の末裔、海野新右衛門清勝が度々の戦に無常心を起こし、仕えていた毛利家を離れてこの地に留まり慶長9年(1604年 慶長8年に徳川家康江戸幕府開く)真宗本願寺派十二代目の門跡准如上人の弟子となり、元和3年(1617年)僧清浄が真宗に改め本願寺派の末寺となった。

# 西専寺 浄土宗西山派

2010年12月23日



貫川沿いの大字貫字今吉にある、バス停の名称にもなっている、浄土宗西山派の寺。開基不詳。当初は禅寺であったらしいが、応永21年(1414年)に栄覚(寺院明細帳では恵覚となっている)が中興し、浄土宗西山派、光照山西専寺と称した(企救郡寺院開基帳)。本尊の阿弥陀如来座像は鎌倉初期の作とされる。観音堂もあり、長野護念寺末とも、光明寺末とも言われる。

# 今吉・薬師堂

2010年10月16日



かつては今吉の山頂にあり、「豊前海を航行する船が沈む」ことが続き、「貫山の薬師堂から発する光に魅入られて、操舵を誤る」と噂になり、現在地に移された。

府殿より少し貫山側にある、二市一郡新四国霊場第34番奥の院、薬師堂。本尊は薬師如来。急な階段にご用心。



# 今吉・羽山様

2011年5月18日



今吉・薬師堂の階段を降り、道を渡って民家の間に入る細い道を行くと、野鳥が飛来し田畑を荒らす原因となっていた上貫の沼地を幕府に無許可で埋め立て開拓したとして茶臼山で斬刑された羽山権之丞を祭神とするお社がある。後に荘民達が羽山講、羽山祭祀料を元に田畑を購入。

# 府殿屋敷・薬師堂

2011年5月18日



二市一郡新四国霊場  
第三十四番札所  
府殿屋敷 薬師堂  
本尊 薬師如来

八皇子神社へ入る道から2つ貫山寄りの、家庭ゴミ収集ステーション脇の狭い道を山側に上ると、広く整地された敷地が目飛び込んで来る。その敷地左手奥にお地藏様が十数体あり、真ん中の木の後ろに隠れる様に府殿(ふどの)屋敷 薬師堂がある。

画面左側の階段を上って左側に行くと貫氏の墓地がある。

# 殿屋敷 貫神社 貫氏供養塔群 2011年5月18日



府殿屋敷薬師堂の反対側、敷地左奥に「貫神社」、実際は貫氏の墓地がある。ひときわ大きい五輪塔が貫宗景のものとされている。府殿の府は「官省符荘」の「符」との説も。

# 府殿・八皇子神社

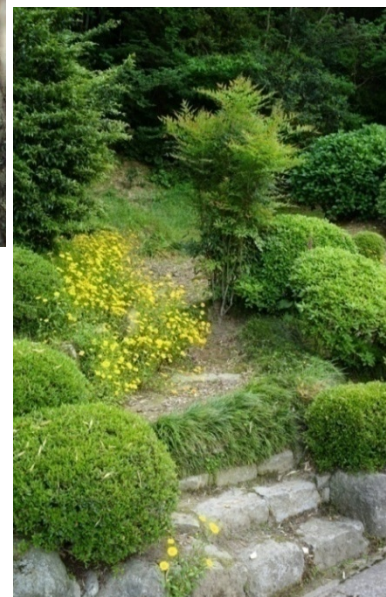
2011年3月27日



かつて貫城の家臣達が住んでいた府殿(ふどの)。鳥居の額には寛政5年(1793年)とあり、祇園社の祭神、牛頭天王の八人の王子を祀る。8月最終日曜の大祭に催される子供相撲の小さな土俵が見える。王子ではなく皇子なので、南北朝時代宮方についての貫氏がお迎えした懐良親王(かねよししんのう:1329~1383年。征西将軍宮。九州遠征時(10歳前後)、後醍醐天皇の第八番目の皇子)に因むという説も。

# 府殿・坂の観音(観音堂)

2011年5月15日



綺麗に整えられた植え込みと  
供花が印象的。中へ入るには、  
ひと声かけてからの方が良い。

二市一郡新四国霊場  
第卅五番奥ノ院  
府殿 観音堂  
本尊 観世音菩薩

八皇子神社より一貫山側の道を入り、突き当たりのお宅の門の手前から左斜面の庭先を登って行くと、元禄6年祀前？宮川伝右衛門建立の直厳伝入居士、元禄8年祀の月峯貞園信女の武士夫婦の墓があり、さらにその奥、庭の急斜面に建っている。因みに武士夫婦と、このお宅は血縁ではない。

# 府殿・地藏院

2011年5月21日



八皇子神社を見おろす北側円形丘陵地。神社より一つ北側の道を入り裏手から回ると山道に古い一つ巴の家紋入り鬼瓦が埋まっていたり、階段状石垣、五輪塔や石板がある。

# 府殿・地蔵堂

2010年12月19日



上貫三丁目バス停すぐ傍に在る。その先を左に折れれば  
弥生が丘方面、真つすぐ進むと府殿。コの字に折れて下つ  
て行くと畠山（小倉東高校）への道、戻れば御座遺跡から  
長野旧道へと交通の要所。画面の左斜面を上ると、「堂の  
上」。ミラーと御堂の間に小振りながら中世の供養塔であ  
る、五輪塔が倒れて転がっている。



二市一郡新四国霊場  
第七十九番奥院  
府殿 地蔵堂  
本尊 地蔵菩薩

# 堂の上・一字一石塔と心霊殿

2011年6月15日



この地は「堂の上」と呼ばれ、かつてはたくさんの近世の墓石があったが現在は納骨堂「心霊殿」の中に整理し、納められている。

周囲が木々に覆われているが、遠く芝津社を目にすることが出来る、見晴らしが良い所である。



府殿地藏堂の脇の道を上って行くと、小倉瞳幼稚園を見おろす高台に、近世の墓石と一字一石(いちじいっせき)の経文を書いて埋納した一字一石塔がある。



# 貫御座神宮寺・お堂

2010年12月1日



貫川を渡って荘八幡神社境内下から右脇の道を少し上ると、小さなお堂がある。新四国霊場第七十番奥ノ院でもある貫御座(おんざ)神宮寺の本尊は観世音菩薩。

# 下貫観音堂・馬頭観世音菩薩

2009年5月13日



下貫4丁目7番地、字名で言う  
と別府(べつふ)の住宅地にある  
新四国霊場第八十七番札所のお堂。



古い石碑が木の左隣に在る。文字が解読できないのが残念！

# 貫弥生が丘・鬼塚

2009年5月13日



景行天皇(けいこうてんのう 日本武尊の父。帝紀紀元71～130年。実在4世紀前半?)  
が祢疑(貫)山の鬼(土蜘蛛=土着の豪族)を討ってその体を埋めたので、鬼塚と名付けら  
れた(左側の小山)。現在は貫弥生が丘団地の家々に囲まれている。

# 中貫風智院・丸尾遺跡

2009年5月13日



新四国霊場第七十番奥ノ院のお堂。本尊は不動明王。風智院の名称は、貫川が直角近くに折れ曲がって出来た「淵」に由来。奥の森の斜面が丸尾遺跡。この付近は広畑・真光寺地区とも言う。

貫弥生が丘の団地から住宅の脇の階段を下りてすぐの、鬼塚の近くにある。東九州自動車道建設時に発掘調査で縄文時代草創期(1万年～8千年前)の石器や土器が上から流れ落ちてきた土砂の中に見つかった。

# 御座古墳群(貫弥生が丘)

2010年12月1日



貫弥生が丘・貫中央公園の奥にある、貫地区最古の4世紀末、全長22mの前方後円墳一基と直径15mの円墳3基。

中国の魏で製作した三角縁獣文帯三神三獣鏡の破片が副葬。

# 両岡様(もろおかさま)古墳群

2010年11月27日



貫川沿いの荘八幡神社より少し下流、中貫本町にある6世紀末の全長27mの前方後円墳と径10mの円墳。現在は個人の私有地である。

# 旧スワン・マート裏 地蔵・経堂

2011年4月28日



中には、お地蔵様と経文の碑がある。

旧スワン・マート(現New Yorkストア)の裏に、ひっそり佇む。スワン・マートが奥の方で開業した1970年代後半に事務所裏に建てられ、後に現在地へ移設。

# 高島古墳(下貫2丁目6番)

2010年11月28日



国道10号線の工事により大半消失し、墳丘形態は不明。南側(貫山側)にその名残がある。

ハローディの道路を挟んで向かい側にある、6世紀中頃の長さ3.4m、幅1.8mの横穴式石室を特徴とする古墳。



# 茶毘志山古墳(東貫)

2011年4月9日



国道10号バイパス沿い、今はもう無いハッスルラーメンの奥、全長54m  
市内では荒神森古墳に次ぐ規模を誇る5世紀後半の前方後円墳。

# 上山山古墳(東貫)

2010年11月28日



10号線沿いの茶毘志山古墳からちょっと奥に入った、東貫の住宅地にある、全長51mの6世紀前半の前方後円墳。入口に天疫神社の石祠がある。

# 潤崎観音堂(東貫二丁目16番)

2011年4月26日



上ん山古墳の向かい側にあり、現在は公民館としても使用され、地元の人々の集う場所となっている。

右手奥に不動明王とお地蔵様の像があるが、本尊は観世音菩薩で二市一郡新四国霊場第八十番札所。

# 畠山古墳(田原4丁目)

2010年11月27日



国道10号線の工事により大半消失したが、田原交差点付近に全長44m、6世紀中期の古墳があり、南側にその面影が残る。小倉東高校敷地の高台には、弥生末期〜古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡の畠山遺跡がある。

# 下貫石棺群

2010年11月23日



松尾神社と貫城跡の間の丘陵地に、横穴式石室石棺が現在3号墳まで確認されている。最下層からは縄文時代の土器や石器が、中層からは弥生時代の土器、古墳時代の須恵器や土師器、奈良～鎌倉時代にかけての土師器や陶磁器が出土。左下の写真は松尾神社から貫城跡を目指して佐野畜産へ下りていく道沿い左手木の根元にある、巨石による2号石棺墳墓。内部は6畳ほどもあったが現在は崩れて石材が散乱した状態。



佐野畜産からクィーンヒルズぬき裏手にかけて石棺等に使用されたと思われる石材が多数散乱。貫東公園脇の道沿いには右の様な横穴式石棺等、古墳時代後期の円墳群か？



# 貫・猿田彦大神石碑

2010年11月23日

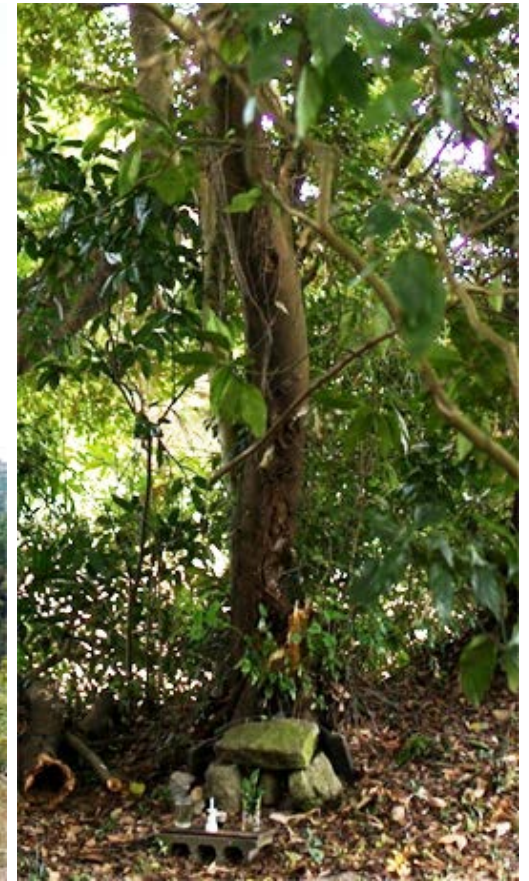
弥生が丘団地の裏手、現在工事が中断されている、弥生が丘1号道路の大字貫地区に立つ、猿田彦大神の石碑。道路側からは木々や草葉に覆われてまったくわからないが、大木を目安に反対側へ回ると巨石が組まれ、その上の祠を目にすることが出来る。



天照大神の孫、邇邇芸命(ニニギノミコト)が高千穂の峰に降臨(天孫降臨)する際、天の八衢(ヤチマタ)に出向いた、本来は伊勢の地主神。道の神、道祖神と同一視され、江戸時代の庚申信仰の影響で全国各地に見られる。集落の入り口に、道標の様に祀られていることが多い。結界という説も。

# 貫・猪の谷石祠

2010年11月23日



水晶山の麓、東九州自動車道朽網トンネルの手前、猪の谷池近くにある小森。横穴式石棺様の小さな石祠があり、今でも密かに祀られている。円形に小高く土を盛られているので、本来は古墳だった可能性もある。

# 朽網貴船神社

2009年5月10日



鐘、太鼓、笛で唄囃し、数十頭の牛を使って行う、「神田植え」の神事が行われていたが、明治5年(1872年)の地租改正によって神田は村有化され、神田植え神事も廃絶した。

貴船大神が船で来田見(くたみ)「くさみ」浦に着き、丸山の東麓の地に船を繋ぎ、八尋殿を造って来田見村の産土神となった。祭神は大山祇神(おおやまつみのかみ)、水神・龍神でもある高淤加美神(たかおかみのかみ)、同じく水神・龍神の閻罔象女神(くらみつはのめのかみ)。社殿は、寛永3年(1626年)細川忠利によって建立。



# 昭和池の桜

2008年4月4日



# 山田古墳(大字朽網)

2010年11月27,28日



10号線バイパスの南曾根中学校の反対側、日豊ニュータウン手前に広がる田園地帯。東九州自動車道朽網トンネルが通る山から伸びた丘陵の竹藪の中に、竹で押し上げられた石棺の一部が見える。右奥に見える山は貫山。



# 朽網・山田薬師堂(大字朽網) 2010年11月24日



二市一郡新四国霊場  
第十二番前札  
朽網山薬師堂  
本尊 薬師如来

山田古墳の入り口にある、二市一郡新四国霊場第十二番前札「朽網山田薬師堂」。本尊は薬師如来。

# 塚原古墳(大字朽網)

2010年11月24日



10号線バイパスを朽網に向かって走って行くと南曾根中学校を過ぎてその反対側、日豊ニュータウン手前に、こんもりと繁った小山が見える。現在は墓地として使用されているが、多数の墓石に隠れて奥に石棺がある。古くは塚原と呼ばれたこの地。近隣には山田古墳等、多数の古墳がある。

古墳としては周囲が住宅地で削られてしまっていて詳細不明ながら、立派な横穴式石棺(写真右上:正面 右下:側面)が残っている。

# 山田池古墳(大字朽網)

2010年11月24日



塚原古墳のさらに奥の、山田池の前にある、かつては貴船社があったとされる古墳。

写真左のように石室跡と思われる石材の散乱を見るが、未発掘調査のため詳細不明。名称も仮称。

# 蛭子山・兼突(塚)

2009年5月10日



国道10号バイパスの橋向こう、朽網駅近くの小高い山、蛭子山。その麓には山の端を加工して作ったと思われる、未発掘の塚が多数ある。

# 御祖神社 (みおやじんじや＝妙現社,妙見社) 2011年7月3日



天長8年(831年)建立、東朽網の産土神。祭神は造化三神、天地開闢の時に最初に高天原に現れた天之御中主神(あめのみななかぬしのかみ)、次いで現れた高御産巢日神(たかみむすびのかみ)、生産を司る出雲の神産巢日神(かみむすびのかみ)。その後、貴船神社の摂社となり、近付く者は神罰を受けると言われたが、宝暦(1750年代)の頃より参拝されるようになり、文化3年(1806年)に再興。平成13年東九州自動車道建設により鳥居と灯籠が現在地に移設。不思議な形の狛犬。昭和池展望広場の先から林道宇土線を約1km程上ると鳥居が左手に見える。



# 清涼山宗林寺 (朽網東1丁目18番地) 2011年7月2日



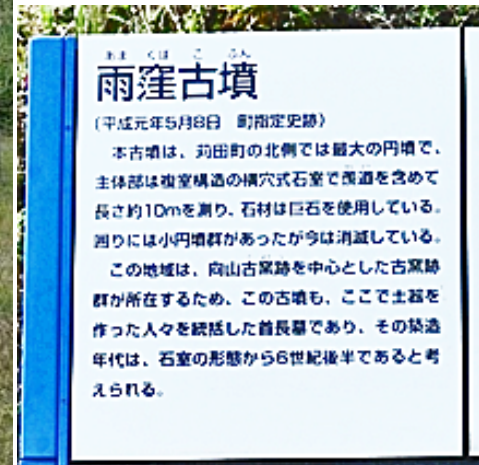
浄土宗西山派、長野護念寺末。本尊阿弥陀如来。境内仏に閻魔堂。永正三丙寅年(1530年)、長野氏族の朽網領主松野中務大輔が宗源庵を開基、力阿弥大徳が中興。東九州縦貫自動車道の建設に伴い、西側へ100mほど登った山中にあった室町時代後期の宝篋印塔や、五輪塔等に移設。





# 雨窪古墳(苅田町雨窪)

2010年11月7日



東九州自動車道苅田北九州空港インターチェンジ下りてすぐ左手にある苅田町北部最大の6世紀後半の円墳。横穴式石室で直径約10m、巨石を使用。周囲の小円墳群は消滅。向山古窯跡等で土器を製造した首長墓と推定。

# 隠蓑安徳天皇御陵・隠徳庵

2009年5月16日



壇ノ浦で入水された幼帝安徳天皇は、実は長野城主に匿われ、さらに英彦山に逃れる際に藁で隠して源氏の追っ手から逃れたという言い伝えがある。

隠蓑の郷の入口の看板。  
九州自動車道と東九州道の分かれた辺りの山側の側道から入った所にひっそりと立っている。第74番札所隠徳庵もある。

# 長野城跡解説板

2011年5月4日

## わが国最大の連続竪濠 長野城跡

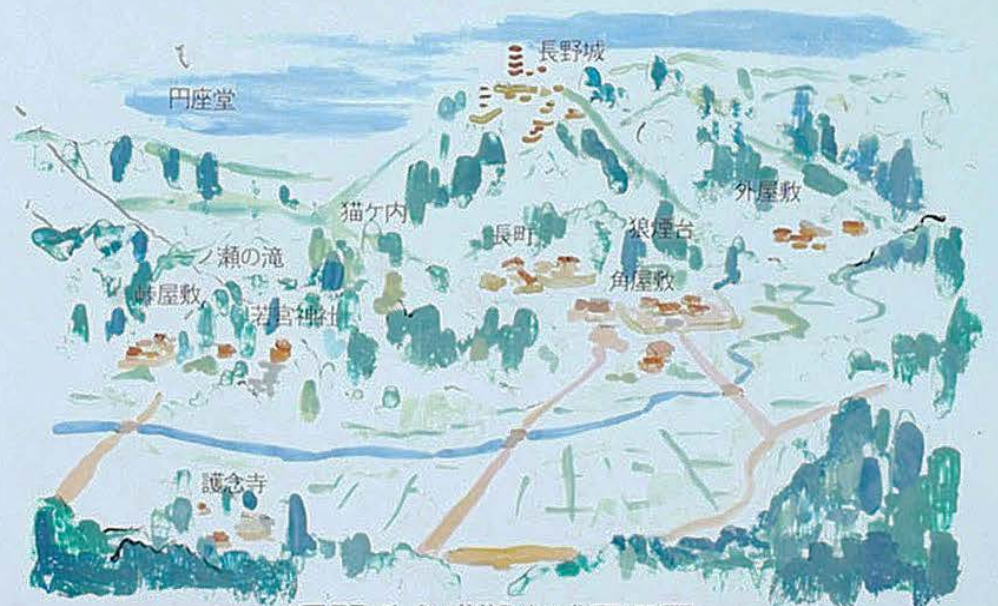
長野城復元想像図



護念寺の南、通称城山(二三〇米)の頂上が城跡である。

保元二年(一一五七年)に豊前の国司としてこの地に下向した平時盛の六男修理判官康盛が長野氏を名乗り、この城を築いたといわれる。

その後城域も拡張され、今現存する城跡は、約四百年前の戦国時代末期の長野氏の居城として遺構が良く残っています。特に城台周辺の百数十条の連続竪濠(竪状阻塞)は大規模かつ貴重な遺構で日本一だと称されています。



長野氏全盛期山城周辺図  
(1200年頃)

この解説板は、長野城入口ではなく、護念寺境内入口にある。

# 長野城出丸(三の丸)跡

2011年5月4日



長野林道を上って行くと大きな崩落があり、その手前が出丸跡入口。ロープが目印。

# 長野城本丸跡

2011年5月4日



上中:本丸入口 木片板あるも文字消失

上右:本丸直下の畝状豎堀

左上:本丸櫓台礎石上に在るのは資料では不動明王だが、実際はお地藏様

左下:本丸櫓台盛土



# 長野城二の丸跡

2011年5月4日



本丸入口よりさらに林道を上ると道沿いに二の丸入口が見えるが、すぐ手前が崩落している。畝状縦堀道をロープが二の丸跡すぐ下まで断続的ながら続いていて、赤のビニールテープも目印に上って行くと迷わない。出丸・本丸より短時間で辿り着くので本丸へは二の丸から登ると分かり易く所要時間も短い。

# 長野護念寺

2011年5月4日



左は長野家  
家紋入り江  
戸時代茅葺  
本堂の鬼瓦

長野城城主豊前国守長野氏の菩提寺。観勢山念仏三昧院護念寺と号し、浄土宗西山派本山京都光明寺より金襴法衣着用を許された豊前国西山派筆頭寺。末院六十六箇寺、孫末寺百六十二箇寺にもものぼる。

文明18年(1486年)、長野豊前守助氏二男岩松磨父為、菩提剃髮して住持し、文蔵主と云ふ。夫より浄土宗となり、行念上人と号す。開山忌是なり。末寺の僧徒集まりて、二月六日供養。

# 上長野石棺群

2011年5月4日



道端から見るこ  
とが出来る崖の  
石棺(右上)は周  
囲が崩れて危険  
な状態のため現  
在周辺整備中。

護念寺境内(左上)と、そこから少し下った崖にある石棺(右上)は古墳時代前期(五世紀ごろ)に造られた墳墓で、板状の石材を箱形に並べて作る箱式石棺墓。内部は丹(ベンガラ)で赤く彩色されている。



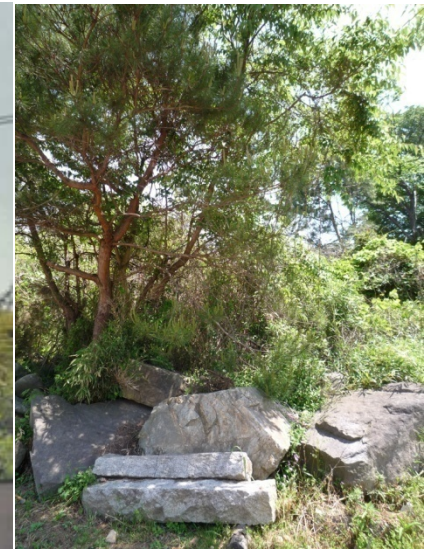
# 森山古墳群

2010年12月4,5日



長野川の東側、津田から企救丘に抜ける新道に沿って、津田南から上長野にかけて小高い森が見えるが、多くが古墳と考えられている。

その西端、長野緑地入り口付近に北九州最大級円墳の臼山古墳がある。長野の地は円墳が多く、同一氏族の墳墓と考えられている。



上の写真は、うどん一道の奥にある古墳。  
石室に使われていたと思われる石材等が散乱している。

# 津田・地藏堂

2010年12月18日



二市一郡新田国霊場  
第五七番札所  
津田 地藏堂  
木尊 地藏菩薩

由緒不明。森山古墳群の  
真つただ中、津田交差点か  
ら貫小学校へ通じるバス通  
りに入つてすぐの所。

貫小学校方面へ登っていくと、奥の院の「圓望堂」がある。

# 津田・圓望堂

2010年12月18,19日



小倉カンツリー倶楽部の池の前の信号を、小倉愛和病院の方へ向かう交差点に、地蔵が封印のしめ縄の様に丸く囲んでいる地がある。圓座の名から円墳か円塚の可能性も。津田地蔵堂は第五十七番札所で、こちらは奥ノ院となっている。

二市一郡新四国霊場  
第五十七番奥ノ院  
津田 圓望堂  
本尊 圓座 觀世音菩薩



貫と長野・津田地区を結ぶ、古くからの交通の要所。昔は辻には辻堂があって、お地蔵様が通行人を見守っていた。

# 長野・白山古墳

2010年12月4日



長野護念寺の道路を挟んで向かい側にある全長100mほどの、北九州地区最大の古墳時代前期と推定される円墳。この地域の首長級の墓と考えられているが、未発掘。朽網にかけて多く見られる、山端を加工して墳墓としたものの一つ。かつて若宮八幡神社がこの頂上部にあった。

# 長野峠遺跡

2010年12月5日



古墳時代後期(西暦400年代)の遺跡で、竪穴住居跡18軒発掘。

# 長野・光明山玄福寺

2009年5月17日



天台宗の浄覚が開基、かつては津田村に在った。長野城主代々の祈願所で、文明年間に兵乱により廃退したが、僧の善念が長野村に移転し、浄土真宗本願寺派の寺として再建。

# 観音寺古墳(長野本町)

2010年12月5日



玄福寺の真裏にあるのに、観音寺古墳と呼ばれる、全長20mの、未発掘前方後円墳。竹林のためにくびれが出来て一見、前方後円墳に見える、という説もある。

# 長野・観音堂

2010年12月4日



二市一郡新四国霊場  
第三十二番札所  
長野 観音堂  
本尊 観世音菩薩

不動明王・菩薩・如来像13体が、観音堂に向かって右手にずらりと控えている。観音堂の向く方向を辿っていくと、畑のその先に観音寺古墳がある。古墳やその付近には八幡神社や、弘法大師絡みの霊場が多い。



# 下長野古墳群(長野本町4丁目) 2010年12月5日



長野川の中流域左岸、北東丘陵上の先端部に2  
基確認。1号墳は径約8mの円墳で内部主体は全  
長5mの複室の横穴式石室。2号墳は墳丘を開墾  
した際に削平され、石室の石材が散乱。付近には  
他にも古墳を思わせる森山がたくさんある。

# 宗像神社(上曾根5丁目)

2009年5月6日,6月26日



大治3年(1128年)崇徳天皇の御代筑前国宗像神社(現、大社)より勧請。慶長11年細川忠興により宮繕。明治6年に郷社となる。

祭神は宇佐神宮と同じ三比売命(多岐都比売命、多紀理毘売命、市寸嶋比売命)と、明治十三年六月合祀の事代主神。境内神社として八坂社、大穴牟遲命が祭神の国守社がある。

# 貴布祢社(上曾根5丁目)

2009年5月6日



10号バイパス、貫川を越えて朽網寄左側にこんもり「神社の森」が見える。その中にあるのが闇淤加美神(くらおかみのかみ)、闇御津羽神(くらみつはのかみ)の一对の水神(龍神)を祀るお社。

# 沓波水神社(上曾根地区貫川沿い) 2011年5月4日



上曾根地区の田畑灌漑の為、沓波(くつば)、尾又、田中井堰が設置された。沓波堰から左岸の延兼(のぶかね)川、右岸の勝円(しょうえん)川が分かれる貫川治水の要所の一つ。貫川改修に伴い明治6年建立の石祠を昭和59年に上曾根649番地潮田家にあつた延兼水神社も併せて遷座、合祀した。

# 産天神 (産八幡神社 上曾根3丁目)

2009年5月6日



曾根中学校から朽網へ抜ける道筋に産(うぶ)天神  
前バス停があり、そこから道を入れてすぐ。庚申塚  
の石碑には安永七年(1778年)と記されている。

# 行西寺

2011年3月27日



二市一郡新四国霊場  
第七十七番札所  
行西寺  
木尊薬師如来

産天神より少し曾根中学校寄りの上曾根3丁目2-30に在る。

奥は墓地になっている。辻ヶ山行西寺七堂伽藍と言われるほど、かつては隆盛を誇っていた。上半身の薬師如来像がある。

# 浄土寺 (上曾根3丁目)

2011年3月27日



往時は天台宗。辻ヶ山行西寺の七伽藍の一つであつたが、護念寺開祖行念上人の弟、行満上人慈法和尚が文明15年(1483年)に、浄土宗西山派に改宗。

典教山浄土寺と称し、長野護念寺末、本尊は阿弥陀如来。長禄年間(1457~59年)行満上人により改宗ではなく、開山と言う説も。

# 本願寺（上曾根5丁目）

2011年3月27日



勝円(しょうえん)と呼ばれる南曾根中学校にかけての一带では、縄文後期の土器が出土し、勝円遺跡と命名された。近隣に八幡神社と祭神の比売命が同じ宗像神社もあり、勝円は荘園からの転か？

護念寺開祖行念上人の弟、行満上人慈法和尚が長禄年間（1457〜59年）に開山。重長山本願寺と称し、長野護念寺末、本尊は阿弥陀如来。



# 上曾根・地蔵堂

2011年3月27日



二市一郡新四国聖場  
第五番札所  
上曾根地蔵堂  
本尊 地蔵菩薩

五番  
六丁の能化の  
地蔵菩薩  
みちびきさまへ  
このよけらのよ

上曾根公民館のすぐ隣にある。道祖神の猿田彦神のように石碑の上に、真新しいお地蔵様が、チョコンと乗っているのが印象的。

# 金毘羅大権現石碑 (上曾根3丁目) 2011年4月26日

「メゾンしらさぎ」の道路脇にある石碑。金毘羅大権現の左隣は秋葉大権現かと思ったら、林業大権現。



奥のシャトレールミエール駐車場には石がご神体の小さなお社がある。

石碑右奥に猿田彦大神、明神社・龍神社、正法の文字のみ残る塔上部の民間信仰花崗岩塔群。

# 謹念寺(中曽根市場 中曽根3丁目) 2011年4月29日



白鳳年間(673年～710年頃)、武士が観世音仏像を海中から引き上げ、亀の甲薬師寺に安置し、剃髪して道鏡と号した。永正年間(1504年～1520年)、別府氏長命が堂宇を市場に建立、毎月6日に市を行ったという説も。永禄4年(1561年)、大友の兵火により焼失。

# 円光寺古墳(中曽根3丁目)

2009年5月10日



円光寺は文明年間(1469~87年)に善西(長門国士族日野刑部)が開山。摂州仏照寺末で本尊は阿弥陀如来。寛文9年(1669年)五代目の了円の時に正式に現在の寺号となる。

久保整形外科と駐車場の間の細い道を入って行くと、右手にある浄土真宗本願寺派の寺院。本堂の下から右端の母屋にかけて、全長約42mの前方後円墳。

# 荒神森古墳・浮津島神社

2009年5月10日



JR中曽根踏切横にある、6世紀中頃の全長68mの市内最大規模を誇る前方後円墳。線路と反対側に景行天皇13年に勧請、創立とされる荒(浮津島)神社がある。祭神は経津主命(ふつぬしのかみ)、須佐之男命、武甕槌神、御都波能売神(みづはのめのかみ)。経津主神は元来は物部氏の祭神で、香取神社、春日大社、石上神宮にも祀られる。



# 疫神社 (中曾根6丁目)

2011年3月27日



宗産婦人科医院の横の脇道を入れて行って、線路まで半ばくらいの高に墓地があり、そこが疫神社の裏手になる。  
由緒不明だが、その名称から、下曾根や田原の天疫神社と同種のものか？

# 天疫神社(田原3丁目)

2009年5月10日



祭神・大名牟遲命(おおなむぢのみこと) Ⅱ 大国主命)、  
少名毘古那命(すくなびこなのみこと)。古老伝曰、天  
慶七年(944年)、人民信仰に因て、此両神を寺山に  
祭る。境内三社・貴布祢社・庚申社・水神社(祭神・弥  
都波能売命みづはのめのみこと)

# 天疫神社 (下曾根)

2009年5月10日



日豊線下曾根茶屋跡踏切前の天疫神社。  
線路を挟んで、荒神森古墳がある。



# 上塚(中曽根東1丁目)

2009年5月6日



中曽根村の北方三町に在り。古時、景行帝祢疑山(貫山)の怪物(土蜘蛛)を討伐し、死体を三分し、其首を比土に埋め号して上塚と土人伝へり。

# 曾根新田・綿津美神社神幸祭

2009年5月3日



細川氏が干拓事業を開始し、1803年小笠原氏により完成した曾根新田。寛政元年(1819年)に中吉田の綿津美(わたつみ)神社より分霊、建立。写真は5月3日の曾根神幸祭開作神事の様子。

龍の古語、龍(おかみ)の対の神である、山の「高淤加美命」(たかおかみのみこと)と谷の「閻淤加美命」、海神の「綿都見命」(わたつみのみこと)を祀る。

## ◆掲載内容

### 1.貫地区の風景 表紙～8

春の貫山・貫川沿いの桜（2012年4月6日）、貫の棚田、貫山・平尾台ルート、水晶山、林道下貫線から眺める貫・田原・曾根地区、貫山の蝶1&2、貫川の蛍、貫城跡

### 2.貫近隣の風景 9～11

文化記念公園、周防灘・曾根干潟、高倉堡塁跡

### 3.秋月街道沿い（平尾台・東谷・金辺峠）の風景 12～19

小倉競馬場、平尾台野焼き、小倉鉱業1&2、三菱マテリアル東谷鉱山廃線、金辺峠・島村志津摩の碑、企救・田川郡境界碑（金辺峠）、春吉・眼鏡橋

### 4.中津街道沿いの風景 20～42

小倉城、小倉城と紫川・リバーウォーク、長崎街道・常盤橋、常盤橋と新幹線、中津口、八坂神社・中津口門大石、湯川水神社、安部山公園和気清麻呂像、足立山全景、竹馬川起点、中津街道・葛原地区、葛原八幡神社、妙見古道、中津街道茶屋跡、竹馬川唐戸橋（曾根宿）、正覚山西迎院（曾根宿）、日豊線と中津街道（朽網地区）、帝踏石、豊前松山城跡（苅田町松山）、狸山古戦場、企救・京都郡境界碑、中津街道・行事飴屋門、中津城本丸

### 5.八幡神社・関連神社 43～65

中津薦神社・三角池鳥居、中津薦神社・大楠、中津薦神社・本殿、中津薦神社・神門、宇佐神宮・鳥居、宇佐神宮・本殿、宇佐参宮線26号蒸気機関車、貫・松尾神社、貫・荘八幡神社1&2、津田八幡神社、津田八幡神社元宮 生岩山、沼八幡神社、若宮八幡神社（長野本町）、高倉八幡神社（横代南町）、西大野八幡神社、東大野八幡神社、蒲生八幡神社、篠崎八幡神社、篠崎八幡神社・蛇の枕石（夜泣き石）、到津八幡神社、長尾・八旗八幡神社、足立山妙見宮

## 6.貫地区の神社仏閣古墳遺跡 66～101

山神社（下畑地区）、下畑・八幡様、下畑・長命寺観音堂、貫岳権現芝津神社上宮、貫権現芝津神社、貫山・猿田彦神社、上貫 徳善院、真光寺 貫山 修善院、豊磐社、貫 大日堂、清浄寺、西専寺、今吉・薬師堂、今吉・羽山様、府殿屋敷 薬師堂、殿屋敷 貫神社 貫氏供養塔群、府殿・八皇子神社、府殿 坂の観音、府殿 地蔵院、府殿 地蔵堂、堂の上 一字一石塔と心霊殿、貫御座神宮寺・お堂、下貫観音堂・馬頭観世音菩薩、貫弥生が丘・鬼塚、中貫風智院・丸尾遺跡、御座古墳群、両岡様（もろおかさま）古墳群、旧スワン・マート裏 地蔵・経堂、高島古墳、茶毘志山古墳、上ん山古墳、潤崎観音堂、畠山古墳、下貫石棺群、貫・猿田彦大神石碑、貫・猪の谷石祠

## 7.朽網地区の神社仏閣古墳遺跡・風景 102～111

朽網貴船神社、昭和池の桜、山田古墳、朽網山田薬師堂、塚原古墳、山田池古墳、蛭子山・兼突(塚)、御祖神社、清涼山宗林寺、雨窪古墳

## 8.長野地区の神社仏閣古墳遺跡 112～127

隠蓑安徳天皇御陵・隠徳庵、長野城跡解説板、長野城出丸（三の丸）跡、長野城本丸跡、長野城二の丸跡、長野護念寺、上長野石棺群、森山古墳群、津田・地蔵堂、津田・圓望堂、長野・臼山古墳、長野峠遺跡、長野光明山・玄福寺、観音寺古墳、長野観音堂、下長野古墳群

## 9.曾根地区の神社仏閣古墳遺跡 128～144

宗像神社、貴布祢社、沓波水神社、産天神（産八幡）、行西寺、浄土寺、本願寺、上曾根 地蔵堂、金毘羅大権現石碑、謹念寺、円光寺古墳、荒神森古墳・浮津島神社、疫神社、田原・天疫神社、天疫神社、上塚、曾根新田・綿津美神社 神幸祭（2009年5月3日）

## 参考資料

企救郡誌 宇佐大鏡 曾根村土地宝典 企救郡寺院  
開基録 寺院明細帳 護念寺記録 鍋島文書 宇佐辛  
嶋文書 豊前建久井田帳 宇佐宮領注文(到津文書)  
福岡県文化財史料集史跡の部 大分県立宇佐風土記  
の丘歴史民俗資料館研究紀要(服部秀雄著) 北九州  
の史跡探訪 北九州の歴史 北九州の100万年 小倉  
郷土史学 郷土文化研究会「ふるさと探訪」

## 非売品

発行人 医療法人きむらクリニック 木村公憲  
発行日 2011年3月26日初版発行  
増刷 2017年3月10日第12版発行  
印刷・製本 医療法人きむらクリニック  
〒800-0236 福岡県北九州市小倉南区下貫1-5-6  
©Kimura Clinic 2011 無断転載を禁ず



左のQRコードより、最新のフォトギャラリーの  
データがpdfファイルで入手出来ます。



## 貫・長野・曾根・朽網地区 神社仏閣古墳遺跡マップ